

# 令和6年度 東京都小学校体育研究会 体の動きを高める運動領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

「自ら学び続ける力を、  
仲間と共に身に付けていく体育学習」  
～運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して～

ICTの  
利活用



共有タイム



学習過程



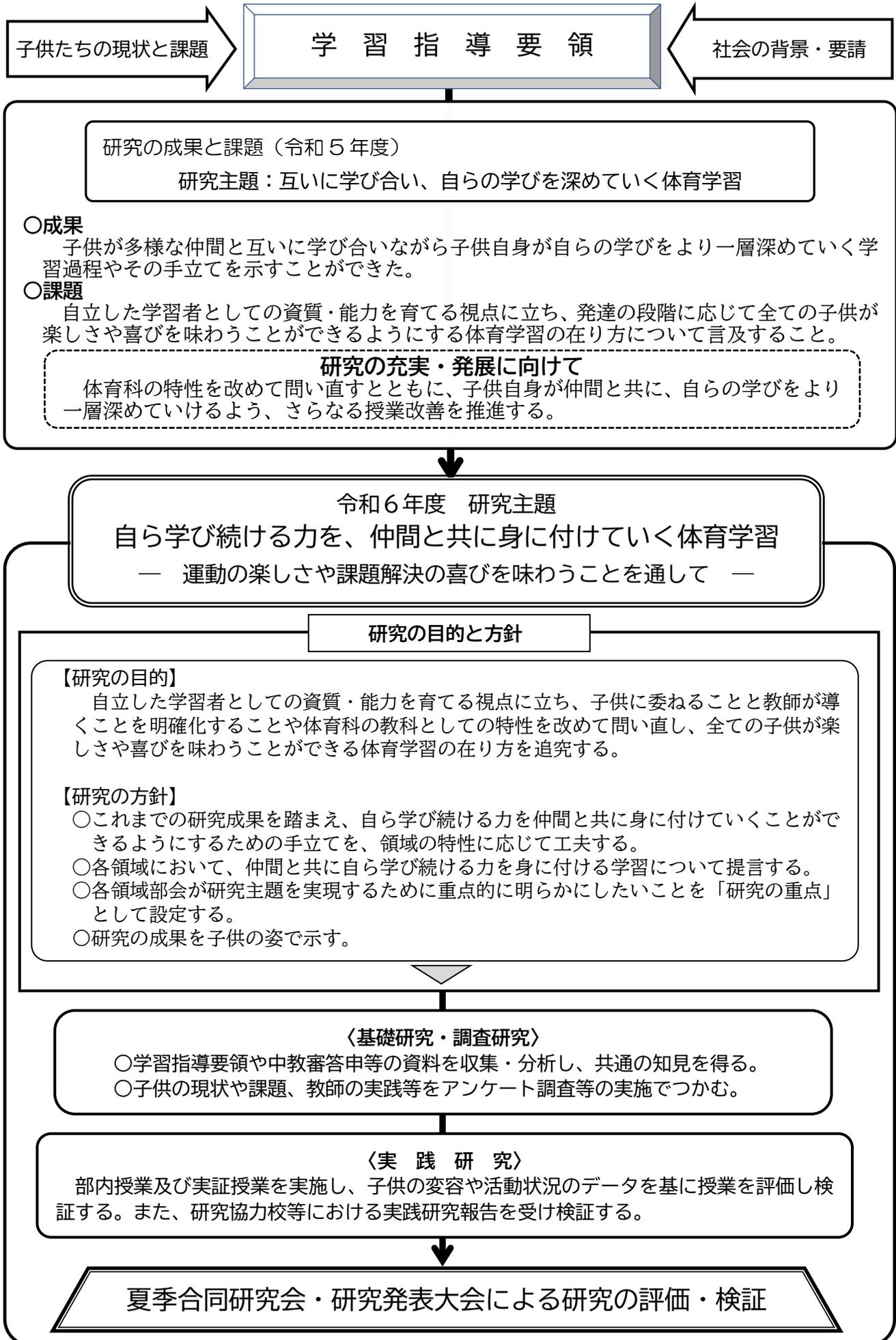
授業日 令和6年11月29日(金) 午後1時45分  
会場 中央区立明石小学校 体育館  
授業者 主幹教諭 山本 侑弥  
単元名 第5学年「体の動きを高める運動」  
講師 板橋区教育委員会 指導主事 福岡 勇人 様



部会のHPは  
こちらの2次元  
コードから



# 研究の全体構想図



# 体の動きを高める運動領域部会 実証授業

## 1 研究主題の実現に向けた部会の考え方

東京都小学校体育研究会の研究主題である、「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習～運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して～」を受け、本部会では、「自ら学び続ける力」を「子供自身が学習課題を見だし、自らの取組を他者と比較しながら振り返り、新たな学習課題を見いだすことができる」ことと捉えた。体の動きを高める運動領域の特性である「子供一人一人の目的に応じて、学習課題を設定し、その学習課題を解決しながら体の動きを高めていく」から、「子供自ら学習課題を設定をすること」は自ら学び続ける力と関連性があると考えた。そのような力を働かせている子供の姿を以下のように捉えた。

運動選択に対する学習課題の設定	運動の行い方に対する学習課題の設定	学び方に対する学習課題の設定
子供から自分の体力に応じた学習課題を見いだしている。	他者の学び方に目を向けて比較し、新たな学習課題を見いだしている。	客観的に自分を見て、振り返り、学習課題を見いだしている。
<b>【想定される子供の具体的な姿】</b>		
<u>タイミングを高めるために</u> (自分の体力に応じた)  <u>長なわ跳びに取り組みたい</u> (学習課題)	<u>〇〇さんが、ボールをつきながら跳んでいたから</u> (他者の学び方に目を向けて)  <u>タイミングをもっと高めるために</u> (自分の体力に応じた)  <u>その工夫を取り入れて長なわ跳びに取り組んでみよう</u> (学習課題)	<u>自分の動画を見ると足裏のベタっとなっていたから</u> (ICT 機器を活用しながら客観的に自分を見て)  <u>タイミングをもっと高めるために</u> (自分の体力に応じた)  <u>足の着き方に気を付けながら長なわ跳びに取り組もう</u> (学習課題)

上記の表にある姿の子供は、右の図にあるような学びのサイクルを自ら回し学習を進めることができると考えた。本部会では、学びのサイクルを、「一単位時間」で回すことができるようになることを目指していく。子供は、毎時間、「見通し」→「行動」→「振り返り」…といったサイクルを繰り返すことで、それらの経験を通して、学びのサイクルの推進力が強くなり、自ら学び続ける力が高まるであろうと考えた。

また、子供によっては、「見通し」の段階や、「見通し」→「行動」の段階で、学習が停滞してしまうことも考えられる。それらの子供に対しては、学びのサイクルが回すことができるように、教師は適切な指導、支援を行っていく。



## 2 研究の重点

### (1) 自ら学ぶ力を身に付けることのできる学習過程

第5・6学年の20時間を5時間ずつの第Ⅰ～Ⅳ期に分け、それぞれの段階で指導内容の重点を明らかにすることで、自ら学び続ける力が身に付くと考えた。その学習過程を進める中で、子供は、「見通し」→「行動」→「振り返り」の学びのサイクルを繰り返し回すことで、子供が自ら学びのサイクルを回すことができるようになり、そのサイクルの推進力が高まっていくことを明らかにする。

### (2) 子供の学習状況に応じた柔軟な共有タイムの在り方

子供は、自分の体力に応じて学習課題を設定し、課題解決に取り組むことで体の動きを高めていく。その中で教師は、体の動きを高めるために必要な情報を、子供の学習状況から見取り、「小集団」や「全体」などの学習形態を、柔軟に必要な内容を共有することで、体の動きを高める運動における学び方が定着し、自ら学び続ける力が高まっていくと考えた。

### (3) 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことのできる運動の設定

子供が「運動の楽しさや課題解決の喜びを味わえる」ことを重点とし、運動を設定した。本年度は、「ペア風船けまり(巧)」「スラックレール(巧)」「ペットボトルバンブー(巧)」「ハンズクラップ(持続)」を追加した。

### (4) 体の動きを高める運動の学び方をアップデートする、ICT 機器の利活用

これまで紙ベースでおこなっていた、「学習カード」「学びのロードマップ」を掲示板アプリを使用した。以上の2点をデジタル化にすることで、仲間同士の学びを「いつでも」「どこでも」共有することができ、体の動きを高める運動の学び方が定着しやすくなり、自ら学び続ける力が身に付いていくと考えた。また、動画撮影については、学習環境を整えることで、「客観的に自分の取組を把握することで体の動きを高めることができる」というような必要感を高めることができると考えた。

## 3 夏季合同研究会より

### (1) 全体協議(協議会の参加者の質問と部会による考えの説明)より

参会した方々から、「体育科でのICTの利活用が難しく感じる」や「共有タイムは、子供が自立して行えるような形にしたい」などのご意見をいただいた。

参会した方々からの質問と部会からの回答は、以下の通りである。

【質問と部会からの解答】 ※Aは、夏季合同研究会時点での部会からの解答

Q 学び方を価値づけるために教師の働きかけが必要である。そのために部会はどんな手立てを持っているのか。

A 個別指導カードやグループごとの共有タイム、ロードマップを活用して、子供それぞれに必要な支援をしたい。

Q ペア風船けまりの高まりの視点は何か。

A 2～3人、5人で手をつないで力の調整、風船の数を変えてではなく、重さや大きさを変えて行う。

また、風船けまりでの高まりの実感は、風船を蹴る際の力の加減を調整して扱えるようになることと捉えている。

(2) 指導講評より 講師:板橋区教育委員会指導主事 福岡 勇人 様

○目的について(教員アンケートの結果)

- ・約半数の教員が、「体の動きを高める運動」に難しさを感じている。
- ・約80%の教員が、「体づくり運動」における効果的な実践例を求めている。  
→理解することで実践を深める、授業改善のきっかけとする。

○体づくり運動について

- ・小学校では、「授業以外でも学んだことを生かすこと」
- ・中学校3年生からは、「実生活に生かすこと」
- ・高校入学年次では、「運動の計画を立てること」  
が目標となっているため、中学校への接続を考えた時の小学校の段階では、学び方(1時間の計画→振り返り)を着実に学ぶ必要がある。

○部会提案について

- ・学びのサイクル「見通し」「行動」「振り返り」を自立してできるようになるために  
「〇〇な力を高めたい」から「□□な運動をしよう」へ  
「△△さんは、☆☆な運動をして体の動きを高めている」⇒「わたしは、姿勢を工夫しよう」  
「タブレットを見ると体のバランスが崩れている。だから、次回も〇〇しよう。」  
など、子供が体の動きを中心に、高める運動を決められるようになってほしい。
- ・共有タイムを運用するのは教師である。ニーズは子供によって多様(個>小集団>全体)であるから、共有タイムで働きかけるのは、個人がよい。
- ・ICTの利活用  
学習過程と紐づけて、「今あるものを、どのように使うか」がカギとなる。

(3) 参加者アンケートより

○学習の進め方について

- ・「学び続ける人」の提案の中にある「課題を見付ける→活用する」の他に粘り強さの側面はどのように捉えているのか気になった。
- ・第Ⅰ期から第Ⅳ期にかけて、子供たちに委ねるところが大きくなっていくと思ったが、子供たちにどのように伝えとよいか。
- ・子供が運動を選択していても、レクリエーション的な授業になりがちでその高まりの実感が難しいと感じている。部会の運動例で、子供たちがどのように選んでいるのか知りたい。
- ・学びのサイクル(A見通し・A行動・R振り返り)の具体的な回し方についてもっと知りたいと思った。
- ・「共に」協働的な学びをしていく手立てや姿がもう少し見えると、より充実してくると思った。
- ・共有タイムの柔軟な運用とあるが、場面や使い分け方を示していただけると取り組みやすい。
- ・ロードマップとは、どのようなものなのか、どのように活用できるのかを知りたいと考えた。
- ・振り返りで、子供から問いを引き出すためにどんな声かけや指導をしているのか。

○運動例について

- ・風船けまりについて  
⇒人数や回数などの工夫を考えやすく、ゲームにもつながる運動だと思った。  
⇒蹴るのみでは子供にとって難しいのか。
- ・運動選択について、従来のような縄跳びでは不十分か。
- ・ペットボトルバンプやスラックレールのほかにも持続や力強さが知れるとよいなと思った。
- ・柔らかさはどのように実践されているのかが知りたい。体力テストの結果からも柔軟性に課題があると考えられている。

## 4 学習指導案

(1) 実証授業 実施校、実施学級

中央区立明石小学校 第5学年3組 子供:25名

指導者:主幹教諭 山本 侑弥

(2) 単元名 体づくり運動「体の動きを高める運動」第Ⅱ期(第6~10時)

(3) 単元の目標

知識及び運動	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力, 人間性等	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	<p>①体の動きを高める運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることができる。</p> <p>③人やものの動き、または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。</p> <p>④一つの運動又は複数の運動を組み合わせて一定の時間続けて行ったり、一定回数を反復して行ったりすることによって、動きを持続する能力を高めることをねらいとして行う運動ができる。</p>
思考・判断・表現	<p>①動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。</p> <p>②自己の体力に応じて取り組む運動や動きを選んだり、動きに工夫を加えたりしている。</p> <p>③観察し合って見つけたポイントや分かったこと、解決の仕方や改善方法について伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②互いの動きを観察し合ったり、教え合ったりするなど、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>③学習に必要な物や用具の準備などで、役割を果たそうとしている。</p> <p>④分かったことを伝え合ったり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。</p> <p>⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。</p>

## (5) 子供の実態

本学級に対して本年度当初に感じたことは、「言われたことを心で受け止め行動に移すことは得意だが、全体的に控えて『～したい』という気持ちが少ない」という印象である。また、自ら学びのサイクルを回す子供が少なかったため、「学びたい」という気持ちを喚起できるように、学習の出会いを工夫することを心掛けた。その出会いを通して問いをもち、問いから子供自身が必要感のある学習課題を見いだす活動を積み重ねてきた。今では、学習との出会いの段階に限らず、途中段階でも子供は問いをもち、自らの学習がよりよくなるために、どのように学んでいきたいかを考えられる子供が増えてきた。

本単元では、プロモーションムービーや運動例を通して「やってみたい」という気持ちを大切に、各手立てを講じながら「自ら体の動きを高めたい」「高めるためによりよく学びたい」という気持ちをさらに喚起させていく。

実態調査の結果を基にした子供の実態は以下の通りである。

【調査対象 第5学年3組 25人 実施時期 第I期事後 令和6年10月23日(水)実施】

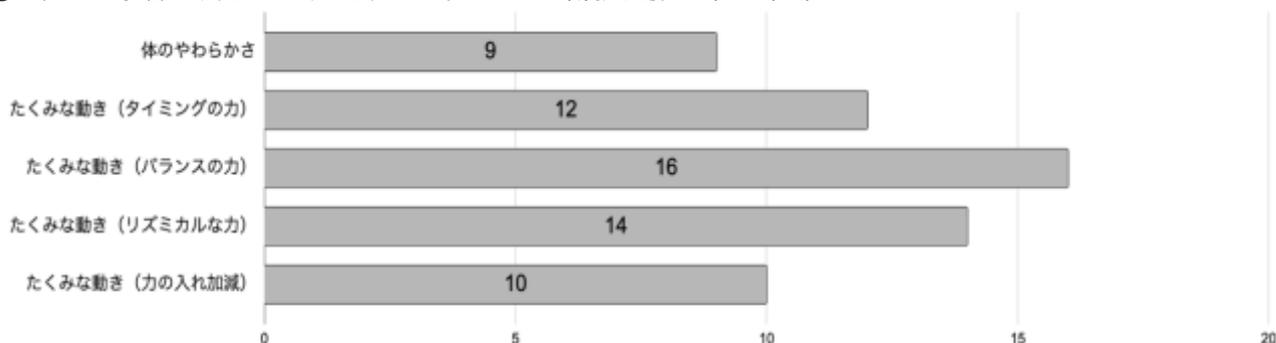
(長期欠席のため1名調査に含めず)

- ① 自分の体力(体の動き)に応じた、めあて(学習課題)を考えることができましたか? (人)      ② 仲間の動きと自分の動きを比べることで、新たなめあて(学習課題)を考えることができましたか? (人)



「学習課題を見いだす」ということに関しては、どちらも肯定的な回答が8~9割程度と高かった。プロモーションムービーを見て、まずは「やってみる」→「問いから学習課題を見いだす」という学習過程については、概ね子供の思考に沿ったものであると考察することができる。

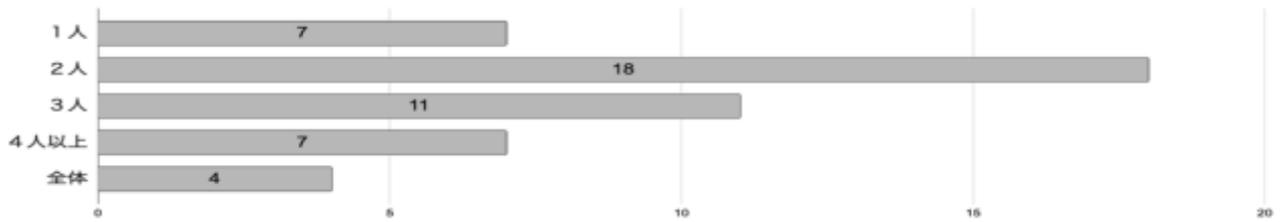
- ③ 今回の学習で高まった体の動きは何ですか?(複数選択可) (人)



回答結果から、全体的に体の動き高まりの実感を得ていることが分かる。子供が選択した運動例を確認すると、巧みな動きを高めるために、「タイミング」「バランス」「リズムカル」「力の入れ加減」の4つを総合的に高めようとしていた。

毎時間4つの運動から2つまで選択して体の動きを高めていく「巧みな動きを高めるための運動」に対し、全体で毎時間取り組んだ「体の柔らかさを高めるための運動」には、高まりの実感を得ていない子供が多い。一部子供に面接をしたところ、「一時的には高まるけど継続しないから」という回答が最も多かった。第II期では、継続的に取り組むことで、より体の柔らかさが高まりやすいことを繰り返し伝え、運動の日常化へとつなげていきたい。

④ 体の動きを高めるために効果的だった仲間の人数はどれですか？(複数選択可) (人)



2人・3人と回答している子供が多く、1人・4人以上・全体と回答している子供が少ない。回答結果から、ねらいに応じて様々な学び方を身に付けていることがうかがえる。特に子供たちは、2～3人程度の少人数での学び合いに効果を感じていることが分かった。毎時間、同じ運動を選択した仲間と、子供自身がその場でグルーピングすることを繰り返すことが奏功したと考える。この学び方を第Ⅱ期も継続していく。

⑤ 体の動きを高めるために役立ったものは何ですか？(複数選択可) (人)



本単元や体育科に限らず、掲示板アプリを活用した振り返りを継続しているため、子供がその良さを実感している。特に、単元内の学習履歴のみならず、過去の単元の学習履歴も即座に確認できることに利点を感じているようである。掲示板アプリと同様に、仲間の動きを見ることに利点を感じている子供も多い。1人で体の動きを高めることに終始するのではなく、仲間と共に高めようとしていることの表れである。共に運動をするだけの仲間ではなく、共に体の動きを高めていく学習集団が形成されつつあるといえる。「自分の動きを撮影して見る」という項目が、「仲間の動きを見る」という項目と比較して低いのは、第Ⅰ期の学習を校庭で実施したことが関係している。気温や太陽光の影響により、タブレットがフリーズしたり見づらかったりした環境面が影響していると考えられる。また、ロードマップに関しては、デジタル化したことにより、常時見ることができなくなり、利点を感じづらくなってしまったので、第Ⅱ期では、第Ⅰ期で作成したロードマップを子供に示しながら、これまでの学びを活用できるようにしていく。

⑥ 体の動きを高めるために大切なことは何ですか？(自由記述)

子供の回答結果を集約すると、以下の3項目に分類することができた。本部会がねらっている学びの姿が子供も大切であることに気付いている。第Ⅱ期も、共有タイムなどでよい学び方を共有し、自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けることができるように指導していきたい。

【自己分析に関すること】

追っかけ再生で自分の動きを見る、動画を撮る、自分の動きを見て次のめあてを考える、動画を見てできていないところを考える、自分の課題点を探す。

【学習課題の設定に関すること】

目標をだんだん難しくする、目標達成したら新しい目標を考える、難しい工夫にチャレンジする。

【協働的な学びに関すること】

仲間と工夫を話す、仲間と教え合う、仲間聞く、仲間と動きを見合う、仲間の動きと自分の動きを比べる、仲間の動きをよく見る、仲間とできない理由を考える。

(6) 研究主題を実現するための手立ての工夫

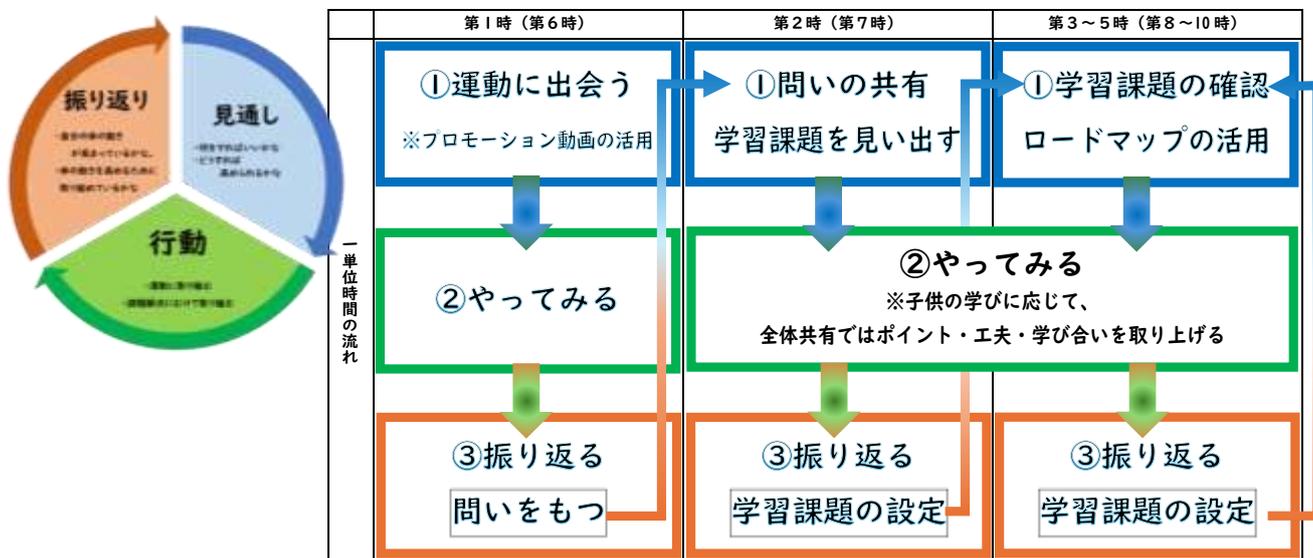
① 自ら学ぶ力を身に付けることのできる学習過程の工夫

第5学年、第6学年の2年間で行う全20時間を5時間ずつの第Ⅰ期～第Ⅳ期に分けた。それぞれの段階で指導する内容を明らかにすることで、自ら学び続ける力が身に付くと考えた。

		第Ⅰ期【学び方を知る段階】					第Ⅱ期【学び方を生かす段階】					
		第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時	
第5学年	運動との出会い ① 巧を やってみる	② 柔 ※2つまで選択可					運動との出会い ① 巧・持を やってみる	② 柔 ※運動を2つまで選択可				
		③ 巧						③ 巧・持 ※運動を2つまで選択可				
		第Ⅲ期【第5学年までの学習を生かして運動に取り組む段階】					第Ⅳ期【簡単な運動の組み合わせを考える段階】					
		第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時	
第6学年		① 柔		② 持			① 巧・柔・力・持 から やってみる	簡単な 計画を 立てる	③ 巧・柔・力・持 ※この4つの中から選択			
		③ 巧	④ 力	⑤ 巧・力 ※3つまで選択可								

○第Ⅰ期と第Ⅱ期は同じ流れで単元を進めていけるように下記のような流れを設定した。子供がその学習過程を進める(「見通し」→「行動」→「振り返り」)の学びのサイクルを繰り返すことで、子供自ら学びのサイクルを回すことができるようになることに繋がると考えた。以下の図が、自ら学び続ける力を身に付けることができる学習過程と想定した。

【学びのサイクルと学習過程の関係性を示した図】



○子供たちは「やってみる(運動場面)」時間の中で、学習課題を解決するために、やってみて体の動きが高まったか確かめる→課題を修正して、もう一度やってみるということを繰り返しながら運動に取り組んでいる。課題を修正したり、解決したりするために、子供の学びに応じて共有タイムや ICT、学習資料を活用することが有効であると考えた。



② 子供の学習状況に応じた柔軟な共有タイムの在り方

本部会では、運動場面の前半と後半の間に、体の動きを高める運動における学び方の定着に向けた時間を確保し、「共有タイム」としてきた。今年度は、自ら学び続ける力を仲間と共に身に付けていくために子供の学びに応じて、「全体共有」「小集団による共有」など学習形態を柔軟に設定することとした。そうすることで、これまで以上に子供にとって必要感のある共有の時間となると考えた。本部会では、「全体」や「小集団」で共有する内容を以下のように整理した。

<学びの形態に応じた子供同士で共有したい内容>

全体 <small>の</small> 学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識をもって運動に取り組むこと。</li> <li>・ポイントを意識して取り組むことでより体の動きを高められること。</li> <li>・動きを工夫して取り組むと体の動きを高められること。</li> <li>・高めたい力を意識して、もとの動きを基本とすること。</li> </ul>
小集団 <small>の</small> 学び (取り組む運動ごと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の動きのこつ・ポイントを知る。</li> <li>・他者の工夫した動きを知る。</li> </ul>

上記の学びの形態に応じた子供同士で共有したい内容を、以下のような場面を想定し教師は全体共有を図っていく。

<全体共有を図る必要のある学習状況例…目的意識の定着を目指したい場面>

子供の学習状況



スラックレールは楽しいな。  
ただ、楽しいだけで、スラックレールで体の動きは高まるのかな？

教師の見取りと指導の方向性

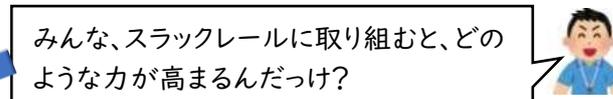


みんな楽しそうに取り組んでいるな？  
けど、このまま、楽しいだけでは、体の動きを高めることにはつながっていかないな。

それぞれの運動に取り組む子供の学習状況を見取り、全体共有の場面を設ける。

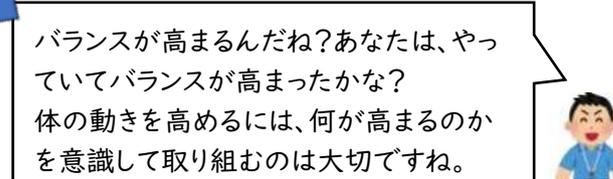


スラックレールは、バランスが高まります。



みんな、スラックレールに取り組むと、どのような力が高まるんだっけ？

教師は、子供の学びを認めていく中で、体の動きを高める運動における学び方を価値付けていく。



バランスが高まるんだね？あなたは、やっ  
ていてバランスが高まったかな？  
体の動きを高めるには、何が高まるのか  
を意識して取り組むのは大切ですね。

また、単元において共有したい内容とタイミングは以下の通りである。

<単元において共有したい内容とタイミングの目安>

	I期(学び方を知る段階)					II期(学び方を生かす段階)				
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時
5年	運動との出会い やってみる	目的意識		動きの工夫		運動との出会い やってみる	目的意識		動きの工夫	
		ポイント					ポイント			
		学び合い					学び合い			
6年	III期(第5学年までの学習を生かして運動に取り組む段階)					IV期(中学校への接続を考え、簡単な計画を立てる段階)				
	6年生に関しては、子供の実態に応じて、共有タイムの有無を考える。									

子供の学習状況を把握するために観察や対話を行い、自ら学び続ける力を身に付け、学びのサイクルを回すことができるようにしていくために以下の内容を共有していく。共有タイムでは、【目的意識・ポイント・学び合い・動きの工夫】の観点で、各時間におさえたいことができている子供を紹介する。そうすることで、他の動きに取り組んでいる子供にも、価値のある共有になると考える。

<共有タイムで取り上げる内容と学び方>

目的意識 <u>高めたい力を意識して運動させたい</u>	
 <p>スラックレールでは、何が高まるんだっけ？</p> <p>スラックレールでは、バランスが高まります。</p> <p>それぞれの運動に取り組む時は、高めたい力を意識することが大事だね。</p>	<p>&lt;共有タイムにおける留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「どうすれば●●ができるようになるか？」 「高めるためには、どうしたらよいか？」などの内容を取り上げ、子供に目的意識をもつことを意識付ける。</li> <li>◆何の力を高めたいか、子供自身が考えられるようにする。</li> </ul>

ポイント <u>高めるために、体をどのように動かすとよいか考えさせたい</u>	
 <p>スラックレールで落ちずに渡り切れないな。</p> <p>できるようになるために、体のどの部分に気を付けて動かすとよいか？</p>  <p>両手でバランスをとってみたい、遠くを見るように視線を上げたりするとできるかもしれないな。</p> <p>体の部分に気を付けて取り組むのは、大事だね。</p>	<p>&lt;共有タイムにおける留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ポイント(体の部位をどう動かすのか)を意識しながら運動することで、動きの高まりを実感につなげていく。</li> <li>◆他の運動にも生かせるように、「体の部位をこう動かすとできるね。」という紹介をして、価値付ける。</li> </ul>

動きの工夫 <u>より体の動きを高める工夫をさせたい</u>	
 <p>どうしたらスラックレールで もっと動きを高められるかな。</p> <p>もとの動きから、さらにどんな工夫をすると、より高められるかな？</p>  <p>途中でしゃがんで、もっとバランスを高めてみようかな。あとは、スラックレールをやりながらボールを投げてもらってキャッチすることもやってみよう。</p> <p>もとの動きから、姿勢を変えてみたい、用具を使ってみたりする工夫がいいね。</p>	<p>&lt;共有タイムにおける留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆より体の動きを高めるために、もとの動きから「人数・姿勢・リズム・方向・用具」という視点で、工夫して運動に取り組めるようにする。</li> <li>◆もとの動きから「量・質・感覚・再現性」などが向上したことを「高まる」として、動きの工夫を促していく。</li> </ul>

学び合い <u>高めるために、仲間との学び合いをもっと増やしたい</u>	
 <p>スラックレールでもっと高めるためにどうしたらよいか。</p> <p>友達と協力して、さらに高められないかな。</p>  <p>後ろ向きでスラックレールを渡ってバランスを高めてみようかな。そのために、●●さんに手で支えてもらいながらやってみよう。</p> <p>手助け(やアドバイス)をしてもらうことで、さらに高めることができるね。</p>	<p>&lt;共有タイムにおける留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆仲間同士で工夫した運動の行い方を見せたり、一緒に取り組んだり、言葉で伝え合ったりすることを促す。</li> <li>◆仲間との学び合いを豊かにすることで、さらに体の動きを高められることを価値付けていく。</li> </ul>

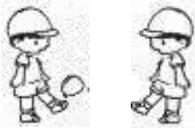
③ 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことのできる運動の設定

本部会では、子供が学習課題を見だし、学習課題の解決に向けた取り組みを充実させるために、運動の設定の視点を以下のように整理し、令和5年度には「学び合い」を促すように仲間と共に行えるような動きを設定した。本年度は副主題である「運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうこと」ができることを重点に置き、運動を設定した。

令和5年度までの運動開発の視点	令和6年度の運動開発の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫の善し悪しが分かりやすい。</li> <li>・高まる動きが明確である。</li> <li>・運動の楽しさを味わうことができる。</li> <li>・高まりを実感しやすい。</li> <li>・「学び合い」を促すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさを感じやすい。</li> <li>・課題解決の喜びを味わいやすい。</li> <li>・自らの学習課題を見だしやすい。</li> <li>・仲間と協働して課題解決に向かえる。</li> </ul>

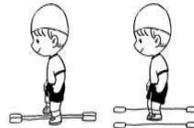
<令和6年度 新たに取り入れた運動>

ペア風船けまり (巧・力の入れ加減)



1枚のマットの上に立ち、風船をペアで足の力の入れ加減を調整しながら三回蹴り上げる。

ペットボトルバンパー (巧・タイミング)



ペットボトルに結びつけられたゴム紐を、タイミングよくステップしながら跳ぶ。

スラックレール (巧・バランス)



補助ありで平均台に円筒を半分にした柔軟性のあるスポンジの上をバランスを取りながら渡る。

ハンズクラップ (持続)



音楽に合わせて体を動かしたり、手を打ったりして楽しく動きを継続させる。

④ 体の動きを高める運動の学び方をアップデートする、ICT 機器の利活用

ICT 機器を活用した方法を3種類として、以下の手立てを講じた。

第1に、「プロモーションムービーを通して、学習意欲を喚起する工夫」である。第1時や第6時など、運動と出会う時間の最初にプロモーションムービーを活用する。「取り組む運動例」や「もとの動き」のみならず、工夫例を示すことで、より子供たちの「やってみたい」という学習意欲を喚起することをねらう。運動との出会いの際に、「やってみたい」という気持ちが高いほど、より必要感のある学習課題を見出すことにつながると考える。

第2に、「掲示板アプリを活用し、学習履歴を共有する工夫」である。単元内の学習履歴に留まらず、過去に実施した他の単元の学習履歴も振り返ることができる。また、第I期の様子からも、仲間の振り返りを参考にすることができるため、よりよい学びへと自己調整する機会を保障する手立てにもなっている。

第3に、「撮影環境を整備し、より体の動かし方に着目できる工夫」である。タブレットがあれば撮影はできるが、撮影者が必要になり物理的な距離が生まれてしまう。そのため、運動中のかかわりが希薄になってしまうことがこれまでの課題であった。また、タブレットを用いて録画撮影をすると自分や仲間の体の動かし方に着目できること自体はよいが、試聴まで時間を要してしまうため利活用できていないことが課題であった。以上の2つの課題を解決するため、タブレットスタンドを活用することで撮影環境を整備した。また、録画撮影も使用可ではあるが、遅延撮影機能の利点を子供に伝えることで遅延撮影の活用を促した。



「やってみたい」気持ちを喚起するプロモーションムービー

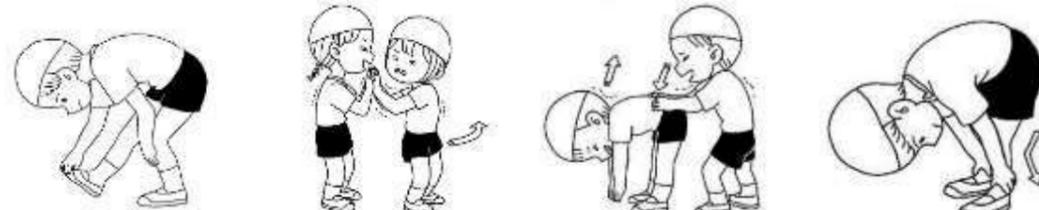
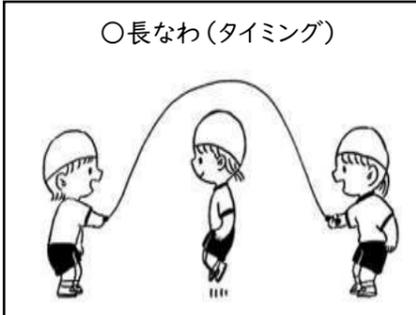
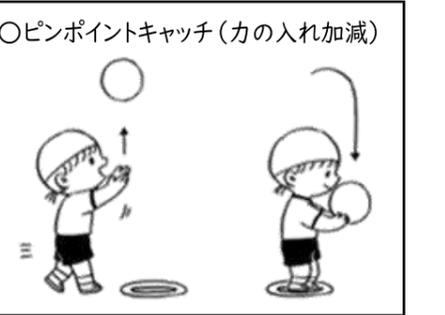


掲示板アプリによる学習カード

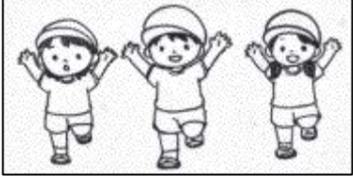
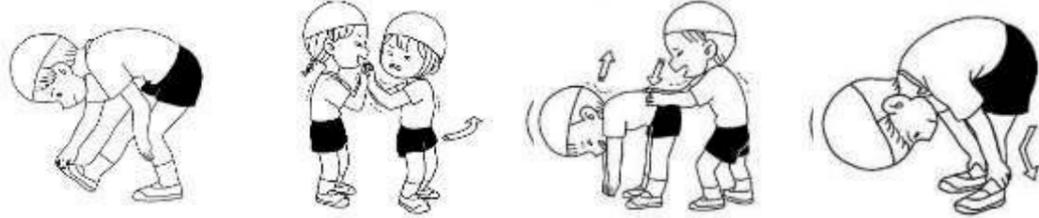
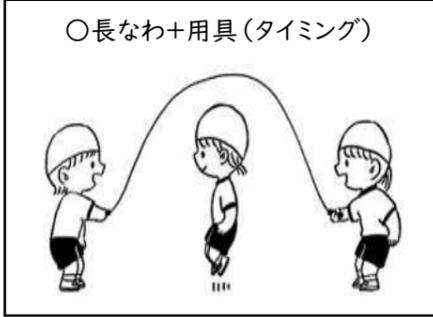
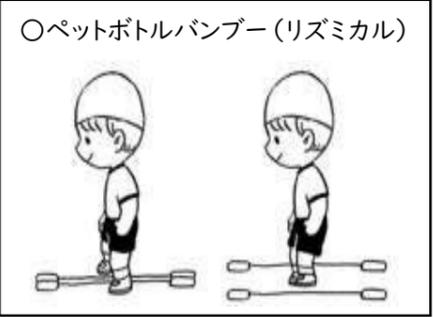
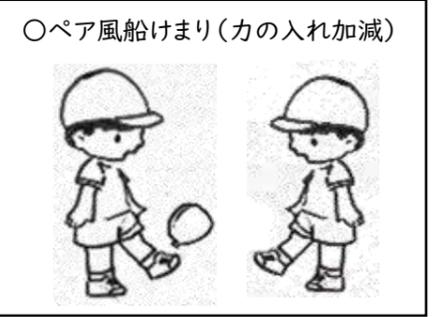


タブレットスタンドを使用し、遅延撮影を学びに生かす

(7) 単元の指導計画

			第 I 期		
時間	1		2		3・4・5
段階	問いをもち、学習課題を見いだす。		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。		
学習内容	運動との出会い 問いをもち		問いから学習課題を見いだす		ポイントを意識したり、動きを工夫したり、学び合ったりしながら高める。 (以上の内容を、必要に応じて「全体」「小集団」で取り上げる)
学習活動	1 集合、整列、挨拶を行う				
	2 これまでの学習経験を振り返る。 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る。 4 準備運動を行う。		2 前時にもった問いを共有する。		2 自分の学習課題、学びのロードマップを確認する。
			3 準備運動を行う。		
			4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」		
	5 巧みな動きを高めるための運動に取り組む。(第1時のみ、運動の出会いを大切にするため、全ての運動に取り組む。)(第2時以降は、2つまで選択して取り組む。) 巧み前半→共有タイム(必要に応じて入れる)→巧み後半				
	 <p>○長なわ(タイミング)</p>	 <p>○平均台+用具(バランス)</p>	 <p>○リズムカルコース走(リズムカル)</p>	 <p>○ピンポイントドリブル(力の入れ加減)</p>	 <p>○ピンポイントキャッチ(力の入れ加減)</p>
	6 運動を通して考えたり、感じたりした問いをもち。 7 片付け・整理運動を行う。 8 振り返りを行う。		6 片付け・整理運動を行う。		
			7 振り返りを行う。		7 振り返りを行い、次時の学習課題や取り組む運動を選択する。
教師のかかわり	<b>「やってみてどうだった？」</b> ⇒子供の「やってみよう」「楽しそう。」という思いを大切にする。実感したことを問いとして、価値付けていく。		<b>「〇〇では何が高まるの？(高まり)」</b> ⇒体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。		<b>「体のどの部分に気を付けて動かすとよいか？(ポイント)」</b> ⇒ポイント意識をもって運動することの大切さを確認する。 <b>「どんな工夫をすると、より高められるかな？(工夫)」</b> ⇒動きを工夫する視点を示しながら体の動きを高める方法を確認していく。 <b>「仲間と協力して、さらに高められないかな？(学び合い)」</b> ⇒さらに、体の動きを高めていくために必要なことについて確認していく。

第Ⅱ期

時間	6	7	8(本時)・9・10	
段階	問いをもち、学習課題を見いだす。		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。	
学習内容	運動との出会い 問いをもち	問いから学習課題を見いだす	ポイントを意識したり、動きを工夫したり、学び合ったりしながら高める。 (以上の内容を、必要に応じて「全体」「小集団」で取り上げる)	
学習活動	1 集合、整列、挨拶を行う			
	2 これまでの学習経験を振り返る。 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る。 4 準備運動とハンズクラップを行う。	2 前時にもった問いを共有する。	2 自分の学習課題、学びのロードマップを確認する。	
		3 準備運動を行う。		
		4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」		
5 巧みな動きを高めるための運動に取り組む。(第6時のみ、運動の出会いを大切にするため、全ての運動に取り組む。)(第7時以降は、2つまで選択して取り組む。) 巧み前半→共有タイム(必要に応じて入れる)→巧み後半				
				
6 運動を通して考えたり、感じたりした問いをもち。 7 片付け・整理運動を行う。 8 振り返りを行う。	6 片付け・整理運動を行う。	7 振り返りを行う。	7 振り返りを行い、次時の学習課題や取り組む運動を選択する。	
教師のかかわり	<p>「やってみてどうだった？」 ⇒ 子供の「やってみたい。」「楽しそう。」という思いを大切に。実感したことを問いとして、価値付けていく。</p> <p>「〇〇では何が高まるの?(高まり)」 ⇒ 体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。</p> <p>「体のどの部分に気を付けて動かすとよいか?」(ポイント) ⇒ ポイント意識をもって運動することの大切さを確認する。</p> <p>「どんな工夫をすると、より高められるかな?」(工夫) ⇒ 動きを工夫する視点を示しながら体の動きを高める方法を確認していく。</p> <p>「仲間と協力して、さらに高められないかな?(学び合い)」 ⇒ さらに、体の動きを高めていくために必要なことについて確認していく。</p>			

(8) 本時の学習 (8/10)

① 本時のねらい

学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動き、動きを持続するための能力を高めるための動きを選んだり、動きに工夫を加えたりすることができるようにする。

② 展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	□評価
<p>1 集合・挨拶を行う</p> <p>2 自分の学習課題、学びのロードマップを確認する</p> <p>3 準備運動を行う</p> <p>4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む ○エンジョイストレッチ</p> <p>5 巧みな動き・動きを持続する能力を高めるための運動に取り組む (前・後半で運動を2つまで選択)</p> <p>〈巧〉 ○長なわ+用具(タイミング) ○スラックレール(バランス) ○ペットボトルバンパー(リズムカル) ○ペア風船けまり(力の入れ加減)</p> <p>〈持〉 ○ハンズクラップ</p>	<p>○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援</p> <p>○子供の学習カードから共有したい内容を取り上げる。</p> <p>○部位を意識させるよう声を掛ける。 ○動きの高まりが実感できるように、運動を行う前と後に現状を知る活動(計測)を取り入れる。 ○正しい行い方で丁寧に運動すると体の動きの高まりを実感しやすいことや、継続的に取り組むと体の柔らかさがより高まりやすくなることを伝える。</p> <p>○子供の学びに応じて、共有タイムを設定する。 ○どのように体を動かせばよいか仲間と共に考えられるよう、撮影用のタブレットスタンドを複数台用意する。</p> <p>○仲間と学び合っている子供を価値付ける。 ◎高まりの実感が伴わないようであれば、前回の自分の運動の行い方や回数の変化に注目してみることや仲間と対話することを促す。</p>	<p>□評価</p> <p>【形成】</p> <p>□自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。(運動)</p> <p>□体の動きの高め方について気付いたことについて仲間に言葉や動作で伝えている。(運動・発言)</p>
<p>【共有タイムで取り上げる内容と学び方ーポイントー】</p> <p>スラックレールで落ちずに渡り切れないな。</p> <p>できるようにするために、体のどの部分に気を付けて動かすとよいか？</p> <p>両手でバランスをとってみたい、遠くを見るように視線を上げたりしてみよう。</p>		<p>【共有タイムで取り上げる内容と学び方ー学び合いー】</p> <p>スラックレールでもっと高めるためにどうしたらよいか。</p> <p>●●さんにアドバイスをもらったり、手助けしてもらったりしてもよいか。</p> <p>後ろ向きでスラックレールを渡ってバランスを高めてみようかな。そのために、●●さんに手で支えてもらいながらやってみよう。</p>
<p>6 片付け・整理運動を行う</p> <p>7 振り返りを行う</p>	<p>○各部位を意識して運動するように声を掛ける。</p> <p>○気付いた動きのポイントや仲間との関わりを意図的に取り上げる。</p> <p>○課題解決の達成状況等を確認し、次時の学習課題を見いだせるようにする。</p>	<p>【総括】</p> <p>□自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。(振り返り・運動)</p>